

# 絵文字発表会をしよう(3年)

## 指導目標

自分たちで絵文字を考え、聞き手にわかりやすいように発表する。

- 伝えたいことを選び、自分の考えがわかるように筋道を立てて話すこと。
- 話の中心に気をつけて聞き、自分の感想をまとめること。

## 学習材について

本学習材は、『くらしと絵文字』(説明文)において、学校や町の中にあるたくさんの絵文字にふれた経験をもとに、3年生の児童が生活圏を越えた学習活動へと発展させていくのに適している。学習活動の対象となる絵文字は具体物であり、3年生の児童でも町の中で容易に見つけることができる。町の中にある絵文字を探したり、自分で絵文字を考えたりする学習活動は、児童にとってたいへん魅力的なものである。

前半の2ページは、「いろいろな絵文字を見つけよう」と「カードにかいてしょうかいしよう」となっている。児童の絵文字に対する興味・関心を喚起し、絵文字の集め方、カードの作り方などの本単元で繰り返し活用される基本的な学び方を提示している。

後半の3ページには、『絵文字発表会をしよう』という学習材名が提示され、絵文字を作る観点、資料作成の方法、スピーチメモの書き方とその例、発表会のやり方、聞き取りカードの書き込みとその例が提示されている。

本学習材では、楽しく絵文字を作り、その「意味」や「はる場所」などの大事なことを「筋道立てて話す」ことが学習の重点の一つである。聞き手にわかりやすくするために、自分が話したいことの順序を整理して話すようにする能力を身に付けさせたい。

## 「A 話すこと・聞くこと」の目標と内容

### 目標

- (1) 相手や目的に応じ、調べた事などについて、筋道を立てて話すことや話の中心に気をつけて聞くことができるようにするとともに、進んで話し合おうとする態度を育てる。

### 内容

- (1) 話すこと・聞くこと的能力を育てるため、次の事項について指導する。

ア 伝えたい事を選び、自分の考えが分かるように筋道を立てて、相手や目的に応じた適切な言葉遣いで話すこと。

イ 話の中心に気をつけて聞き、自分の感想をまとめること。

ウ 互いの考えの相違点や共通点を考えながら、進んで話し合うこと。

第3学年で学習する、「A話すこと・聞くこと」の、話し手が相手や目的を意識して話しているときには、聞き手も相手意識や目的意識をもちながら聞く必要がある。

また、前学年までに学習した、行動の順序、時間の順序、事柄の順序、場面の移り変わりの順序などを考えながら相手にわかりやすく、話の中心をはっきりと決めて、話の要点が伝わるように工夫して話したり、事柄の順序を、要点・中心など、話の組み立て方を意識しながら、大事なことを正確に聞き取ったりすることができるように指導したい。

学習指導計画(全8時間)

展開・時	学習活動	留意点
第1～2時	○学習内容をつかみ,これからの学習計画を立てる。 ・テーマを決める ・絵文字を考える	○学習計画を立てさせる。 ・自分が作ってみたい絵文字のテーマを決めさせる。 ・自分のテーマに合った絵文字を考えさせる。「絵文字の意味」「はる場所」
	○絵文字カードを作る。 ・テーマ ・絵文字 ・見やすく工夫する	○考えた絵文字を大きく書かせる。 ・画用紙やカードなどに見やすく書かせる。
第3～4時	○スピーチメモを書く。 ・「はじめ・中・おわり」の構成を考え,短くまとめる。	○大事なことが伝わるようにスピーチメモを作らせる。
	○絵文字発表会の準備や練習をする。 ・個人練習 ・二人で聞き合う。 ・グループで発表し合う	○大事なことが伝わるようにスピーチの練習をさせる。 ・スピーチメモ用紙を用意し,事柄の順序がわかるようなメモを作らせる。 ・適切な練習をさせるために,二人組みやグループを作り,話し手と聞き手と評価者に役割を分担させる。 ・観点にそって,お互いにアドバイスし合うように助言する。
第5～8時	○絵文字発表会をする。 ・わかりやすい ・話す速さや音量 ・場に応じた丁寧な言葉遣い ・聞き取りメモ	○手順を示して,発表会ができるようにする。 発表者の発表 メモタイム(1,2分間) 質問タイム 感想 *質問・感想合わせて5人程度が発表する。 ・発表者の内容からそれずに,すすんで質問するように助言する。 ・よくわからなかったこと・もっと知りたいことなどについて質問させる。
	○発表会の感想を書く。	○観点を決めて感想を書くようにさせる。

## 本時の展開(本時5 / 8)

### 目標

・話の組み立てを意識しながら発表し、大事な事を正しく聞き取ることができる。

### 評価規準

ア 発表の仕方を考え、相手意識をもって話そうとする。(関心・意欲・態度)

イ 絵文字を選び、自分の考えがわかるように筋道を立てて話したり、話の中心に気を付けて聞いたりする。(話すこと・聞くこと)

### 展開例

学習活動	学習内容	指導・援助と評価の創意工夫
1 本時の学習課題を確認する。	学習の進め方	○スピーチメモをもとに、絵文字発表会の準備や練習を進めさせる。
	自分たちが考えた絵文字の発表会をしよう。	○発表時には、メモに頼りすぎないようにさせる。
2 発表会をする。 ・発表メモ  ・聞き取りメモ	○自分が考えた絵文字を発表 ・事柄の順序を考えた説明 ・話す速さや音量 ・場に応じた丁寧な言葉遣い  ○聞き取りカードに感想や質問を書き込む ・メモしながら聞く ・意味やはる場所や使われ方 ・感想 ・質問 ・よくわからないこと ・もっと知りたいこと	<b>聞・話:</b> 自分の考えがわかるように筋道を立ててスピーチすることができる。 ○「はじめ・中・おわり」の事柄の順序を考えて発表させる。  <b>聞・話:</b> 質問を書き込みながら、友達のスピーチを聞くことができる。  ○よくわからなかったところやもっと知りたいことなどについて質問させる。
3 上手に発表するための秘訣をまとめる。  (1)まとめる。  (2)秘訣を自分の発表に生かす。	(上手な発表のポイント)  『くらしと絵文字』の中の文型を参考 はじめと終わりの言葉 「まず、次に、最後に」 声の大きさと速さ 自分の思い 絵の見やすさ など	○上手に発表するための話し方の工夫をまとめ、今後の発表の学習にも生かせるようにする。  ○上手な発表のポイントを自分のスピーチに取り入れさせる。
4 本時のまとめと次時の予告	次時の目あて ・発表のよい点・改善点の工夫	発表の仕方を次時からの学習に生かそうとする。

**参考** 指導と評価について

指導事項	評価基準	評価
<p>関心・意欲・態度 表現・書く</p>	<p>話す内容の要点がわかるように、区切りを考えてわかりやすく話そうとする。 みんなの前ですすんで話そうとする。 話し合いにすすんで仲間入りする。 相手にわかりやすい速さ、声の大きさと話そうとする。 話す事柄をまとめて話そうとする。 メモを見ながら大事な点を落とさずに話そうとする。 いろいろなできごとや本を読んだ感想をすすんで話そうとする。</p>	<p>A: 聞き手を意識して、わかりやすく話そうと工夫している。 B: 聞き手を意識して、わかりやすく話そうとする。 C: 絵文字についてのみ話そうとする。</p>
<p>表現・話す</p>	<p>相手の話の内容を受けて話題に合わせて話すことができる。 話の要点がわかるように、区切りを考えて話すことができる。 相手の話の内容をよく聞くことができる。 話の仲間に入ることができる。 話題からそれないで話すことができる。 話の要点を初めに言うことができる。 話す事柄を整理し中心点をはっきりさせることができる。 話す内容や根拠を言うことができる。 初め・中・終わりなどの区切りを考えて話すことができる。</p>	<p>A: メモでわかりやすく発表できる。 B: メモを見ながら発表できる。 C: 発表原稿を見ながら発表できる。</p>
<p>表現・聞く</p>	<p>わからないところは聞き返して、話の内容を正確に聞き取ることができる。 話の要点を聞き取り、自分の立場からまとめてみる。 話し手の方を向いて話を聞くことができる。 わかったこと、共感したことがあったとき、うなずきながら聞くことができる。 わからないところを質問することができる。 話の大切な部分とそうでない部分を区別することができる。 話の内容の要点をメモすることができる。 話の内容のたいたいを復唱できる。</p>	<p>A: わからないところは聞き返すことができる。 B: 話の内容のたいたいが理解できる。 C: 話し手の方を向いて静かに聞くことができる。</p>
<p>言語事項・発音</p>	<p>発音のなまりや癖を直すようにして話すことができる。 その場の状況に応じて適切な声の大きさや速さを考えて話すことができる。 正しい発音とそうでない発音を理解することができる。 標準的な発音を理解することができる。 自分の発音の癖を自覚することができる。 なまりや癖を直そうと努力することができる。 正しい発音で話すことができる。  その場の人数に合った声の大きさを知ることができる。 その場に合った声の大きさと話そうとすることができる。 その場に合った速さについて考えることができる。</p>	<p>A: その場に応じた声の大きさや速さを考えて話すことができる。 B: その場に応じた声の大きさや速さを知り、努力することができる。 C: 正しい発音で話すことできる。</p>